



折り合いの付け方～成長のための大切なステップ～

校長 山口 浩

桜の花に歓迎されて始まった新年度も、新緑の季節を迎えました。新一年生も加わり、子どもたちは毎日の学校生活を生き生きと過ごしています。

さて、新しい環境にだんだんと慣れてきたころですが、子どもたちは日々の生活の中で思い通りにならないことにたくさん出会います。学校生活や部活動、普段の友達との会話の中での意見のぶつかり合いなど、むしろ思い通りにならないことの方が多いかもしれません。

そういうときに、どのような折り合いを付けていくのか、折り合いの付け方を学ことも、生きていくうえでとても大切なスキルだと感じます。このスキルを身に付けていくためには、いろいろな経験をすること、そして、その中でたくさんの人と出会うことが大切だと考えています。

学校生活の中で意見がぶつかり合うことは誰にでもあります。「自分の意見を通したいけれど、相手の意見も無視できない」。そんな時、私たち大人が子供たちに「折り合いを付ける」ことの大切さを伝えていく必要があります。

折り合いを付けるとは、どちらかが我慢して無理やり相手に合わせることはありません。多数決で数の少ない意見を切り捨てることでもありません。お互いが100点満点ではなくても、「まあ、これなら納得できるね！」という着地点を、知恵を出し合って新しく作り出すことです。

そして、話し合いの際に以下の3つのステップを意識することが大切です。

【折り合いを付けるための3つのステップ】

①自分の「これだけは譲れない」を1つに絞る。

全部を通そうとせず、自分にとって一番大切な核心以外は、相手に譲る心の準備をします。

②相手の「大切にしたい理由」を最後まで聴く。

意見が違って、相手の「気持ち」や「背景」を否定せず、じっくり耳を傾けます。

③「第三のアイデア」を新しく作る。

「自分の案」か「相手の案」かの2択ではなく、両方の良さを掛け合わせた新しい案を組み立てます。

社会に出ると、自分と全く違う考えを持つ人たちと協力して進める場面の連続です。中学校はその「折り合いの付け方」を学ぶ最高の練習場所です。ご家庭でも、テレビのチャンネル争いや家事の分担など、小さな意見の食い違いが起きた際に「どうやって折り合いを付けようか？」と、ぜひ一緒に考えてみてください。